

伊達な
国際交流員の
つれづれコラム
vol.91



「今までの人生」
Life until Recently

英訳版を
見る▶



8月から国際交流員として、ワシントンDC近辺から夫と子ども2人と家族4人で一緒に伊達市へ引っ越してきました。現在は、伊達市での新しい生活にとっても満足し、わくわくしています。我が家では、子どもたちが小さい頃から「なるべく日本語」という家族のルールがありました。月曜日から金曜日まではアメリカの地元校に通わせ、毎週土曜日は日本語学校に通わせていました。日本語学校のカリキュラムは日本の学校

の学習内容に合わせたもので、おかげで息子たちは、英語も日本語も話すことができるバイリンガルになり、夫も私も感動しています。

ママになる前はサンフランシスコ州立大学の大学院で日本語を専攻し、そのあとワシントンDC在住の日本人コミュニティーに英語を教える仕事をしていました。経験を生かし、伊達市にいた間は、皆さんのかわいくて元気な子どもたちのために英語のイベントを開催したり、伊達市に住む外国人コミュニティーのサポートをしたり、みんなと一緒に過ごす機会を増やしたいと思っています。アイデアをお持ちの人は、ぜひお聞かせください！よろしくお願いたします。(イボンヌ)

地域の魅力
ふる里再発見

第2回企画展案内

～歴史的な絆を、
ゆかりの古文書類から読み解く～

令和6年度第2回企画展
～姉妹都市協定締結40周年記念～
令和6年10月12日(土)～
令和7年1月27日(日)
伊達市保原歴史文化資料館

伊達市(旧梁川町)と北海道松前町は姉妹都市になって40周年を迎えます。松前藩と梁川の関わりは二度あります。最初は文化4年(1807)～文政4年(1821)、松前藩国替えの時代です。

18世紀後半、帝政ロシアの南下政策が活発になり、幕府の蝦夷地防衛策が強化され、文化4年(1807)、蝦夷地全域が幕府領となりました。広大な蝦夷地を松前藩だけで統治することは困難だったので、松前藩は幕府から伊達郡(梁川村など、6村)、上野国(群馬県)・常陸国(茨城県)に1万8千石余を与えられ、梁川に政庁を置きました。国替え生活はロシアの南下政策が後退するまで、14年間もおよびました。家老蠣崎波響は松前復領に感謝して、梁川天神社境内に石灯籠(伊達市指定文化財)を奉納しています。



梁川天神社境内
「石灯籠」

二度目は安政2年(1855)～明治4年(1871)松前藩分領の時代です。安政元年(1854)、幕府はペリーと日米和親条約を締結し、下田・箱館が開港になりました。同2年、幕府は高まる外圧に備えて、松前氏の居城周辺を除き、蝦夷地を再び直轄支配地にしました。替地は伊達郡・出羽国村山郡東根(山形県東根市)の村々3万石余でした。明治2年(1869)、松前藩は館藩に改称。6村は館藩分領となりました。同4年(1871)、廃藩置県により館藩は弘前県、青森県、福島県(中通り)、二本松県に引き継がれ、同9年(1876)、現行の福島県に統合されました。

にじいろのだて(男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介)

『性的指向 (Sexual Orientation)』… 人の恋愛・性愛がどのような対象に向かうのかを示す概念。「自分の意志で変えたり、選んだりできるものではない」といわれています。

